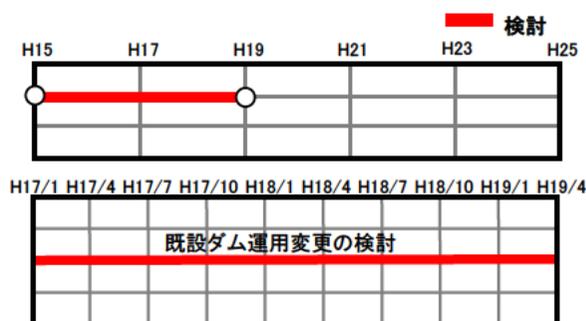


既設ダムの再編・運用変更による治水効果を検討

●具体的な整備内容

既設ダムの再編・運用変更により治水・利水機能の向上について検討する。
(天ヶ瀬ダム、高山ダム、青蓮寺ダム、室生ダム、布目ダム、比奈知ダム、日吉ダム、一庫ダム)

●スケジュール



●整備効果 名張川における事例

名張川上流の3ダム(青蓮寺ダム、室生ダム、比奈知ダム)では、下流河川整備状況を踏まえ、その洪水調節効果が最大限発揮できる洪水調節方式へと見直しを行った。

その結果、名張川(名張市上名張地点)において、従前の洪水調節方式に比べ、水位の上昇を抑えることが可能となった。

●提案理由(代替案含む) 名張川における事例

・従来計画は引堤・築堤・河道掘削の河川改修で浸水対策を行ってきた。

・名張川・宇陀川合流点付近は流下能力が不足し過去より浸水被害をこうむっている。合流点上流部は堤防護岸部が概成しているが、合流点下流は堤防等は整備途中であり無堤地区が存在しており、地区間でも治水対策の不均衡が生じている。

このため整備計画の地元説明会においても、名張市・地元より浸水被害解消を強く要望された。

・一方、同箇所は名張市街地に位置するが、竹林が繁茂する自然環境豊かな河川環境を有し、淀川流域委員会の提言でも「自然環境に配慮した河川整備」が謳われている。

・そこで従来の改修策から、できるだけ河川環境にも配慮して、先ず同箇所上流の既存3ダムについて、現在の洪水調節方式を再度見直し、更なる効果があるか否かの検討を行う。

●検討項目

- ・既設ダム運用変更の検討
- ・浸水被害の軽減効果
- ・下流への影響
- ・事業費、工期
- ・関係者等とのアロケの検討

●委員会等からの意見

特になし。

既設ダムの再編・運用変更による治水効果を検討

進捗状況

- ・既設ダムの運用変更の検討
- ・浸水被害の軽減効果
- ・下流への影響
- ・事業費、工期
- ・関係者等とのアロケの検討

(既設ダムの運用変更による治水機能の向上)

淀川水系で、ダム運用変更の効用が高い木津川水系ダム群の室生、青蓮寺、比奈知ダムにおいて、まずは検討を行った。

・室生ダム、青蓮寺ダム、比奈知ダム

検討内容：

宇陀川と名張川における河道改修の進捗の遅れにより、名張川上流3ダム(室生、青蓮寺、比奈知)は**見直した洪水調節操作を余儀なくされている**。そのため、約1/30年規模以下の洪水までしか洪水調節効果が十分に発揮されていない。また、室生ダムが洪水調節容量を使い切った段階で比奈知、青蓮寺両ダムは洪水調節容量を残している。このバランスを良くすることで、中小洪水時での計画量以上の放流を出来る限り無くして、より大きな洪水に対してもダム群として洪水調節能力を発揮できるよう検討する。

検討結果：

室生ダムは(下流の河川改修を前提)放流量の引き上げを行い、青蓮寺ダムと同様の安全度まで向上させる。比奈知ダムは室生ダムが洪水調節容量を使い切った段階で洪水調節容量に余裕があったため、最大放流量を下げることにより、室生ダムでの放流量増分を補完し、名張川河川改修規模を極小化する。青蓮寺ダムは各ダムの安全度のバランスを考慮し、現行どおりとする。以上の**操作規則改定を仮に行うことでダム間の治水安全度バランスが取れるとともに下流域の治水安全度の向上が図れることがわかった**。

・その他

上記以外の既設ダムの運用変更による治水機能の向上については今後着手予定。

今後の見通し

- ・名張川筋ダム群に関して昭和34年台風15号以外の洪水に対しても最適な洪水調節の検討や、河川改修の進捗に合わせた操作規則の運用変更の検討をおこなう。